

令和3年度 武雄市図書館・歴史資料館企画展

SPECIAL EXHIBITION
MARTIAL ARTS
OF
TAKEO

武雄の武

武雄の「武」という字には、「干戈の力により、兵乱を未だに止める」という意味があります。干戈とは、武器のことです。武士の象徴である「刀」は、武器としての性能を高めていく中で、その美しさへの評価が高まり、芸術作品としても親しまれてきました。本展覧会では武雄にゆかりのある刀剣類を中心に、武芸関係資料を展示します。

観覧無料
会期中無休

令和3年

7.31(土) - 9.5(日)

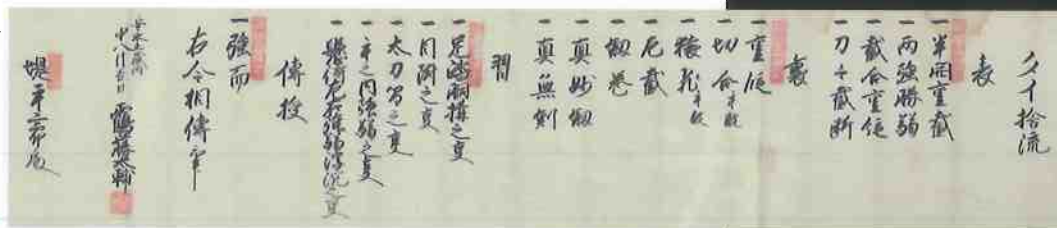
主催/開催場所

武雄市図書館・歴史資料館

蘭学・企画展示室

開館 日～木 9時～18時 金・土 9時～21時
※ただし、8月10日(火)、24日(火)は12時～18時
(刀剣手入れのため)

ギャラリートーク 8月1日(日)・8月21日(土) 14:00～



「タイ捨流相伝目録」堤家資料、佐賀県立図書館蔵



初公開 「妙見自得流管槍目録」武雄市蔵



刀剣金具「鐔・小柄・笄」
武雄鍋島家資料、武雄市蔵

令和三年度 武雄市図書館・歴史資料館企画展

武雄の"武"

SPECIAL EXHIBITION
MARTIAL ARTS
OF
TAKEO

武士の象徴である刀。平安時代末期における武士の台頭と同時に登場した日本刀は、戦闘で用いられる武器であるとともに、刀身や刀装具の美しさから、鑑賞のための美術品として高い価値を誇っています。

当館では、これまでに数振りの刀剣の寄贈を受けており、その中には肥前刀と呼ばれる作品があります。肥前刀は、佐賀藩鍋島家お抱えの刀工である忠吉とその一門による作品です。武雄鍋島家お抱えの刀工、4代広貞も忠吉一門に名を連ねています。本展覧会では、当館所蔵の未公開の刀剣類を中心に、県内にある武雄ゆかりの刀剣類を紹介します。

また、江戸時代には、武士たるものの修めるべき道として武芸が奨励され、剣術・槍術・弓術・馬術などが盛んにおこなわれました。旧家には、武具や兵法書など、武芸に関する資料が残されることが多く、武雄鍋島家にもさまざまな武芸関係資料が残されています。当館では、2020年、槍術の秘伝書の寄贈を受けており、武雄にゆかりの武術や武芸関係資料も併せて展示します。

武雄の"武"の字にふさわしい逸品をぜひご覧ください。

武雄市図書館・歴史資料館

〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄5304-1
TEL.0954-28-9105 FAX.0954-28-9205
E-mail:epochal@city.takeo.lg.jp



<http://www.city.takeo.lg.jp/rekisi/his-top.html>



槍銘「藤原友重作」武雄鍋島家資料、武雄市蔵

槍銘「信国作」武雄鍋島家資料、武雄市蔵

太刀銘「薩州住重吉」武雄鍋島家資料、武雄市蔵

脇差銘「肥前国住人廣貞(二代)広貞」佐賀県立博物館・美術館蔵

刀銘「肥前国藤原廣貞(四代)広貞」佐賀県立博物館・美術館蔵